

「わけあう」

ワークショップ

1

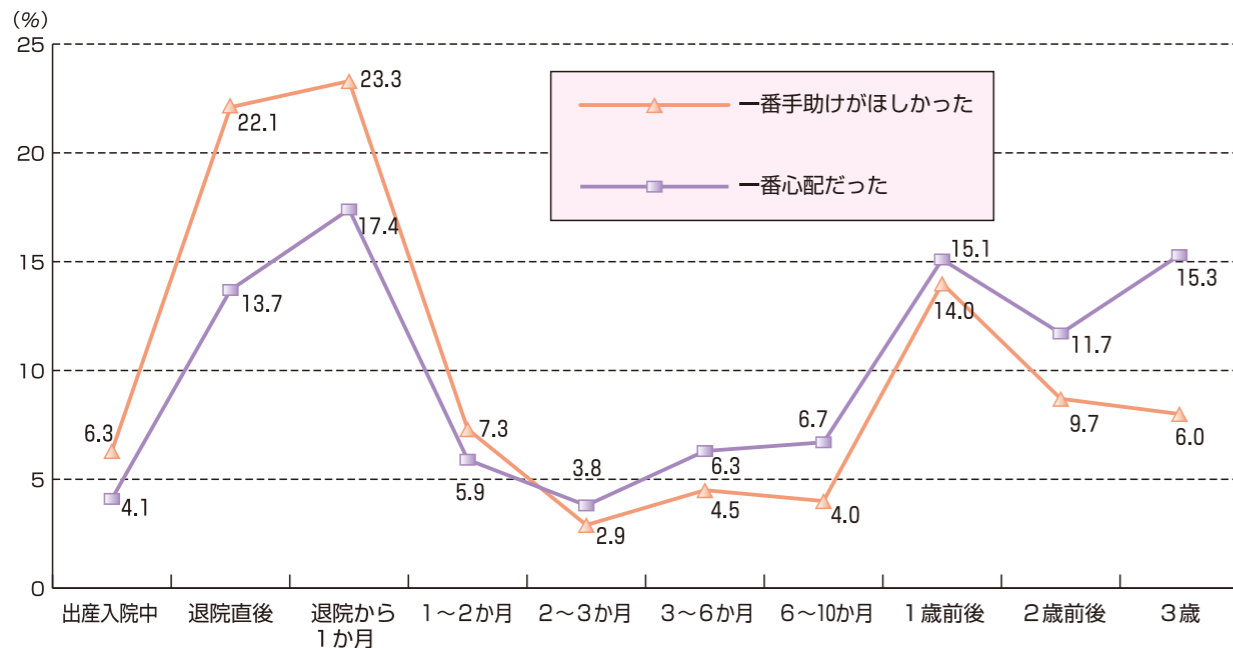
6人ずつのグループをつくり、一枚ずつカードを配ります。配られたカードには次のような役割が書かれています。

2

次のような場面設定で、カードに書かれている役割を演じてみましょう。発言の順番や、内容は決められていません。それぞれの役割(ロール)を考えて、演じて(プレイ)してみてください。この人ならこんな発言をするのではなどグループで話しあいながら、ストーリーをつくっていきましょう。途中でうまくいかなかったらもう一度はじめからやるのも方法です。何度かトライしてみて、「私のグループのストーリー」づくりあげてください。

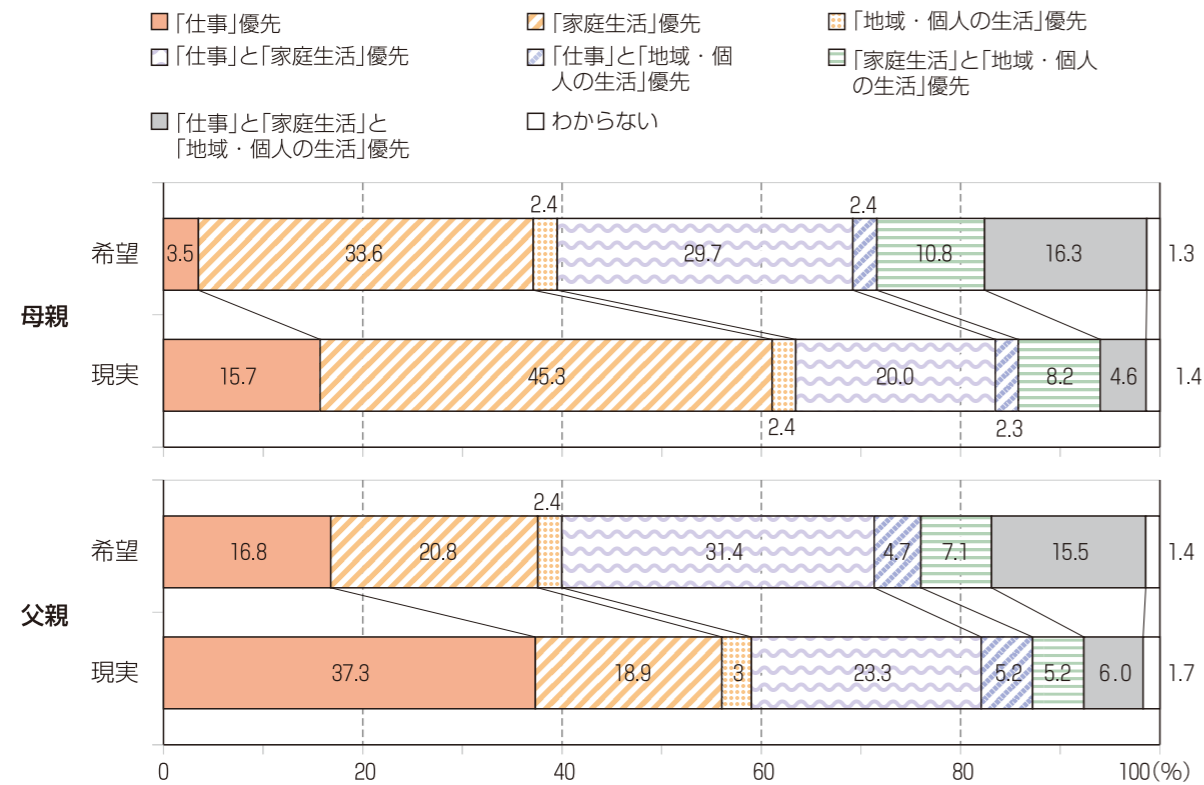
- A**: Cの成長が遅れていると気にしている母親
- B**: AのパートナーであるBの理解と協力が得られず少々育児ノイローゼ気味になっている。
- C**: AとBの子ども
- D**: シングルマザー
- E**: Bの会社の同僚でFのパートナーである男性
- F**: Eのパートナーである女性

今までで育児について一番心配だった時期 (3歳半の子どもを持つ母親が育児について心配だった時期)



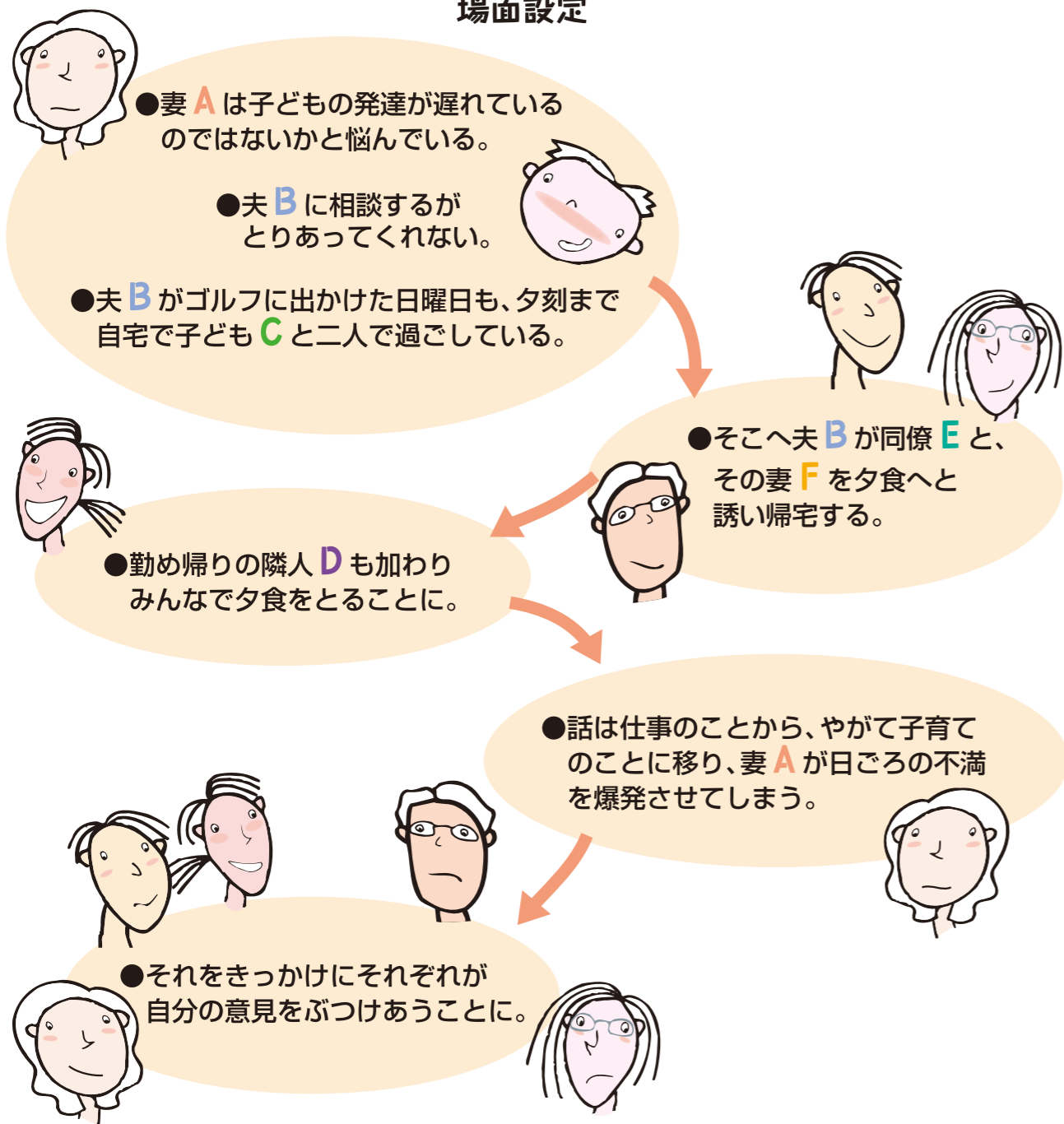
資料：大阪府「地域母子保健サービスに関する研究—新しい乳幼児保健活動の標準方式の策定のための研究—」
※出典：厚生労働省「平成15年版 厚生労働白書」

「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の優先度 (対象:20歳以上)



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年)

場面設定



3

それぞれのグループごとにつくりあげたストーリーを発表しましょう。

4

各自が演じた役割からはなれて、自由に話しあってみましょう。

- それぞれの役割についてどう思いますか？
- 子育てについて相談する相手はだれですか？

エピソード

浩介君は視覚に障害があります。浩介君に障害があると分かったとき、母親の和子さんは泣いてしまいました。でも、浩介君が生まれるまでは仕事ばかりだった夫の浩二さんが、今では浩介君をつれて車で遠くまで出かけたり、職場のつきあいもやめて家族で過ごすようになっていきます。

和子：「本当に変わったわよねえ。結婚したときは家でゴロゴロしているだけだったのにねえ。おかげで助かっているけれど、ちょっと申し訳ない気もしているんだ。」

浩二：「ぼくも自分で変わったなあと思うよ。無邪気に遊んでいる浩介やがんばっている君を見ていると、自分も何かしなくちゃと思うようになったのかなあ。実際に家族で出かけたリ夕食をつくったりしていると、会社のつきあいで飲んでいるより楽しいと思えるようになってきたしね。浩介のおかげかな。」

でも、自分たちは恵まれていると思う和子さん。障害のある子どもがいる家庭ではお互いの気持ちが離れ、家族がばらばらになってしまうこともあると聞いたことがあります。

和子：「子どもの障害をうけとめるのには時間がかかるわ。ずっとうけとめられないかもしれない。でも、一緒になって考えてくれる人がそばにいてだけで気持ちが楽になると思うんだけど…。」



浩二さんのひとりごと…

- いいときも大変なときもいっしょに引き受けるという覚悟が必要なんじゃないかな。でも分かっているもなかなか実際にはむずかしいんだよねあ。

話しあいのポイント

- エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？

- 安心して子育てをするためには、何が大切だと思いますか？